(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3741527号
(P3741527)
(45)発行日　平成18年2月1日(2006.2.1)　(24)登録日　平成17年11月18日(2005.11.18)

(51)Int.Cl.　F I
A63F 7/02 (2006.01)　A63F 7/02 315
A63F 7/02 320
A63F 7/02 333

請求項の数 1　(全 13 頁)

(21)出願番号　特願平9-329528
(22)出願日　平成9年11月12日(1997.11.12)
(62)分割の表示　特願平8-150317の分割
原出願日　平成6年3月14日(1994.3.14)
(65)公開番号　特開平10-192489
(43)公開日　平成10年7月28日(1998.7.28)
審査請求日　平成10年8月18日(1998.8.18)
審判番号　不服2001-18687(P2001-18687/J1)
審判請求日　平成13年10月18日(2001.10.18)

(73)特許権者　000241234
豊丸産業株式会社
愛知県名古屋市中村区長戸井町３丁目１２番地
(74)代理人　100095278
弁理士　犬飼　達彦
(72)発明者　渡辺　兼久
名古屋市中村区長戸井町３丁目１２番地
豊丸産業株式会社内

合議体
審判長　二宮　千久
審判官　林　晴男
審判官　篠崎　正

最終頁に続く

(54)【発明の名称】遊技機

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
複数種の図柄を第１図柄表示部（Ｌ１）と第２図柄表示部（Ｌ２）と第３図柄表示部（Ｌ３）に可変表示し、第１図柄表示部（Ｌ１）、第２図柄表示部（Ｌ２）、第３図柄表示部（Ｌ３）の順に図柄を停止表示し、
第１図柄表示部（Ｌ１）と第２図柄表示部（Ｌ２）の停止図柄が一致し、その後、第３図柄表示部（Ｌ３）の停止図柄が一致すると大当りが生起する遊技機であって、
第１図柄表示部（Ｌ１）の図柄が停止表示し、第３図柄表示部（Ｌ３）の停止図柄が第１図柄表示部（Ｌ１）の停止図柄と一致して停止表示するときには、第２図柄表示部（Ｌ２）と第３図柄表示部（Ｌ３）の図柄が可変表示中に、第３図柄表示部（Ｌ３）は停止図柄にさしかかったときだけ低速で可変表示するか、又は停止図柄にさしかかっときに所定時間だけ停止表示することを特徴とする遊技機。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【産業上の利用分野】
本発明は、パチンコ機の表示器に関し、より詳細には、リーチ状態の表示、特別遊技状態発生後のラウンド数の表示等に関する。
【０００２】
【従来の技術】
従来、パチンコ機には、複数種の図柄を、複数の図柄表示部に可変表示可能な図柄表示器

を有していて、遊技機が特定領域を通過することによって、前記図柄表示部の図柄が所定時間変動後に停止するものがある。例えば、図柄表示部を３個の表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３で構成し、各図柄表示部で可変表示される図柄として、図１１に示すように、「０～１４（図柄としてＡ～Ｏ）」までの１５種類としている。そして、遊技球が特定領域を通過すると、一斉に、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の図柄が可変表示され、所定時間後に、まず、図柄表示部Ｌ１が停止し、続いて、図柄表示部Ｌ２が、最後に図柄表示部Ｌ３の順序に停止する。そして、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の停止図柄が、全て同じ図柄、「０、０、０」～「１４、１４、１４」の１５通りの組合せのときには、大当りを生起する。又、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の停止図柄が、黒数字の「１」、「３」、「５」、「７」、「９」の５種類の図柄（特定図柄）で揃ったときには、大当り終了後に普通電動役物の当たり確率を大きくして、結果的に、大当りを生起し易くしている。尚、この特定図柄は、パチンコ機の種類により、大当りを生起させる図柄と同数の場合や、それ未満の数（例えば、大当り図柄の１／３以下）である場合がある。ここでは、前記例のように５種類の図柄を選定している。

尚、前記図柄表示部Ｌ１とＬ２が同じ図柄で停止する場合には、所謂、リーチ状態として、最後に停止する図柄表示部Ｌ３が前記図柄表示部Ｌ１（Ｌ２）と同じ図柄となって大当りを生起するか、遊技者にとって興味があるため、図柄表示部Ｌ３の図柄可変速度をゆっくり変動させながら停止するようになっている。

又、所謂、第３種のパチンコ機にあって、権利発生後に大入賞口が開く回数（ラウンド数）の選定を、大当りとなる図柄表示部の停止図柄で決定して、遊技者に興趣を与えている。

【０００３】

【発明が解決しようとする課題】

前記のパチンコ機において、大当りを生起した後、特別遊技状態（例えば、普通電動役物が高確率）となる割合は、１／３以下であるため、大当りを生起する前段階のリーチ図柄、即ち、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２の停止図柄が遊技者にとって興味を引くこととなるが、この割合も１／３以下となる。そこで、本発明で、このリーチ割合を増加させて、遊技者の興趣の向上を図る。

又、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３は、図柄表示部Ｌ１、図柄表示部Ｌ２、図柄表示部Ｌ３の順序に停止する。そのため、リーチは図柄表示部Ｌ１と図柄表示部Ｌ２の図柄が一致したときであり、図柄表示部Ｌ３には無関係となっている。そのため、遊技者にとって、リーチの出現が少なく、興味が減少するため、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の停止図柄を考慮したリーチ状態を提供することが望まれている。

又、所謂、第３種のパチンコ機において、大入賞口が開く回数（ラウンド数）の選定を、常時変動している図柄表示部の図柄を権利発生時に停止させ、停止表示された図柄により決定しているものがある。これでは権利が発生した瞬間にラウンド数が決定してしまい興趣に欠けるので、ラウンド数が決定される過程を楽しむことが望まれる。

【０００４】

【課題を解決するための手段】

請求項１の遊技機は、複数種の図柄を第１図柄表示部（Ｌ１）と第２図柄表示部（Ｌ２）と第３図柄表示部（Ｌ３）に可変表示し、第１図柄表示部（Ｌ１）、第２図柄表示部（Ｌ２）、第３図柄表示部（Ｌ３）の順に図柄を停止表示し、第１図柄表示部（Ｌ１）と第２図柄表示部（Ｌ２）の停止図柄が一致し、その後、第３図柄表示部（Ｌ３）の停止図柄が一致すると大当りが生起する。

更に、第１図柄表示部（Ｌ１）の図柄が停止表示し、第３図柄表示部（Ｌ３）の停止図柄が第１図柄表示部（Ｌ１）の停止図柄と一致して停止表示するときには、第２図柄表示部（Ｌ２）と第３図柄表示部（Ｌ３）の図柄が可変表示中に、第３図柄表示部（Ｌ３）は停止図柄にさしかかったときだけ低速で可変表示するか、又は停止図柄にさしかかったときに所定時間だけ停止表示する。

【０００５】

【作用】
請求項１の遊技機は、第１図柄表示部（Ｌ１）の図柄が停止表示し、第３図柄表示部（Ｌ３）の停止図柄が第１図柄表示部（Ｌ１）の停止図柄と一致して停止表示するときには、第２図柄表示部（Ｌ２）と第３図柄表示部（Ｌ３）の図柄が可変表示中に、前記第３図柄表示部（Ｌ３）は停止図柄にさしかかったときだけ低速で可変表示するか、又は停止図柄にさしかかったときに所定時間だけ停止表示する。
従って、同じ図柄が揃う状態が増加して、大当りとなる期待感を提供することができると共に、第２図柄表示部（Ｌ２）と第３図柄表示部（Ｌ３）の図柄が可変表示中に、第３図柄表示部（Ｌ３）は停止図柄にさしかかったときだけ低速で可変表示するか、又は停止図柄にさしかかったときに所定時間だけ停止表示するので、その停止図柄を認識できる。そのときには、第１図柄表示部（Ｌ１）と第３図柄表示部（Ｌ３）の図柄は一致して停止表示する状態であり、第２図柄表示部（Ｌ２）の停止図柄によって大当たりになるか否かが判るので、より、第２図柄表示部（Ｌ２）の図柄に注目する。
【０００６】
【実施例】
（実施例１）
本発明の一実施例を、所謂、「第１種パチンコ機」を例として説明する。
遊技板２のほぼ中央部には、左から図柄表示部Ｌ１、Ｌ３、Ｌ２として表示配列してある図柄表示器Ｌが設けてある。又、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２に示す図柄は図２に示すように、「０」～「１４」（図柄としてＡ～Ｏ）の１５種類の図柄が表示されるが、最後に停止する図柄表示部Ｌ３の図柄は、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２に表示の「０」～「１４」の１５種類の他に、「１」（図柄Ｂ）、「３」（図柄Ｄ）、「５」（図柄Ｆ）、「７」（図柄Ｈ）、「９」（図柄Ｊ）、「１１」（図柄Ｌ）、「１３」（図柄Ｎ）と同じ図柄であるが識別マーク（数字を黒と白）で区別する図柄（追加図柄）を付加してあり、２２種類の図柄である。即ち、図柄表示部Ｌ３の追加図柄は、前記図柄表示部Ｌ１、Ｌ２の特定図柄に対応する図柄（本実施例では同じ図柄）としている。
この図柄表示器Ｌの頂部には普通入賞口３１が付設してあり、一方、図柄表示器Ｌの下部には、開閉自在の普通電動役物３４が配設してあると共に、数字を可変表示する普通図柄表示部Ｈ１、Ｈ２を付設する図柄表示器４０が取り付けてある。３９は大当りが生起のとき開口する大入賞口であって、遊技球が１個入ると賞品球として１５個の遊技球を排出する。大入賞口３９の左右側には普通入賞口３７、３８が付設してある。又、前記図柄表示器Ｌの左右側には普通入賞口３２、３３が、更に、その下部には普通入賞口３５、３６が各々左右に設けられていて、遊技球が１個入ることによって、賞品球として７個排出する。尚、図柄表示器Ｌの左右に配設のゲート４４、４５は、遊技球が何れかのゲートを通過することによって、前記普通図柄表示部Ｈ１、Ｈ２の図柄を可変開始する。尚、１７は上皿、１８は下皿、１９は発射ハンドルである。
【０００７】
次に前記構成の作用について説明すると、遊技球が何れかのゲート４４、４５を通過すると、普通図柄表示部Ｈ１、Ｈ２の図柄（３、７）が可変開始し、約７．９秒後に停止する。停止した図柄が、「３、３」或は「７、７」と揃ったとき、当たりとして、普通電動役物３４を所定時間、開口する。尚、前記普通図柄表示部Ｈ１、Ｈ２で数字が揃って当たりとなる確率は１／１０であり、具体的には、電源投入後から、当たり乱数に２．０４８ｍｓ毎に１をプラスして、０～９９（１００種類）までの循環乱数を形成し、９０～９９（１０種類）を当たりに設定している。又、当たりの時と外れの時には、普通図柄表示部Ｈ１、Ｈ２に表示する数字の組合せは、２．０４８ｍｓ毎に０と１を交互とする停止図柄乱数を作成し、当たりのとき、停止図柄乱数が０のときには、普通表示部Ｈ１、Ｈ２には「３、３」を、１のときには「７、７」を表示する。反対に外れのとき、停止図柄乱数が０のときには、普通図柄表示部Ｈ１、Ｈ２には「３、７」を、１のときには「７、３」を表示する。尚、前記普通電動役物３４が開状態か、或は、普通図柄表示部Ｈ１、Ｈ２の図柄が変動中に、ゲート４４、４５を通過する遊技球の数は、最大４個まで記憶されていて、

前記普通電動役物３４が閉状態となった後に、普通図柄表示部Ｈ１、Ｈ２の図柄が、遊技球数分、変動開始される。

【０００８】

開口、或は狭口状態の普通電動役物３４に遊技球が入ると、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３が一斉に図柄変動を開始し、所定時間後に、停止する。そして、停止した各図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の停止図柄が、予め設定の図柄と一致したとき、大当りが生起したとして、大入賞口３９を開口する。尚、大当りの確率は１／２４０であり、具体的には、電源投入後から、２．０４８ｍｓ毎に１をプラスする０～２３９の循環乱数を形成し、特定の数（例えば、５）を大当りとしている。

又、大当りの時と外れの時に、各図柄表示部Ｌ１、Ｌ２に表示する図柄は１５通り、図柄表示部Ｌ３に表示の図柄は２２通り図柄の何れかであり、各図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３に対応する図柄カウンタＣ１、Ｃ２（０～１４）、Ｃ３（０～２１）を設け、電源投入から２．０４８ｍｓ毎にカウンタＣ１に１をプラスして、カウンタＣ１が１４から０となる毎に、Ｃ２に１を加算する桁上げをなす、所謂、１５進演算を行う０～１４と、カウンタＣ２が１４から０となる毎に、Ｃ３に１を加算する桁上げをなす２２進演算の０～２１までの循環数を形成している。そして、大当りのときには、図柄表示部Ｌ３に対応する図柄カウンタＣ３の図柄を図柄表示部Ｌ１、Ｌ２にも表示して、全ての図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の図柄が同じとなるように構成してある。尚、図柄表示部Ｌ３の図柄が、例えば、１（白数字）と１（黒数字）の何れの場合にも、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２は１（黒数字）を表示し、特定図柄で大当りのときには図柄表示部Ｌ３の図柄は１（黒数字）を表示する。反対に外れのときには、各カウンタＣ１、Ｃ２、Ｃ３に対応する図柄を表示するが、全てのカウンタの値が同じとなったときには、図柄表示部Ｌ３のカウンタＣ３に３を加えて、揃わない図柄となるようになっている。

【０００９】

前記図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の各図柄が揃って、大当りとなると、大入賞口３９が約２５秒、或は遊技球が１０個、入賞するまで開口する。その間に遊技球が大入賞口３９内に形成の特定領域４８に入ると、大入賞口３９は一旦閉となった後、再度、開口し、この開口回数を最大１６回まで繰り返し、大当りを終了する。

尚、前記図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の図柄が変動中か、或は、大入賞口３９が開口状態のときに、普通電動役物３４に入った遊技球は最大４個まで記憶されていて、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の図柄が停止後、或は、大入賞口３９が閉状態となったとき、入った遊技球分、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の図柄変動が開始される。

【００１０】

前記したパチンコ機において、大当りは、図柄表示部Ｌ３の停止図柄が黒数字、白数字に関係なく、各図柄表示部Ｌ１、Ｌ３、Ｌ２の停止図柄が揃う（「０、０、０」～「１４、１４、１４」）場合の２２通りである。尚、前記大当りのうち、特定図柄としての大当りの組合せを、「１（黒数字）、１（黒数字）、１（黒数字）」、「３（黒数字）、３（黒数字）、３（黒数字）」、「５（黒数字）、５（黒数字）、５（黒数字）」、「７（黒数字）、７（黒数字）、７（黒数字）」、「９（黒数字）、９（黒数字）、９（黒数字）」、「１１（黒数字）、１１（黒数字）、１１（黒数字）」、「１３（黒数字）、１３（黒数字）、１３（黒数字）」の７通りとすると、割合は７／２２で、１／３以下となり規制を満たす。

そして、前記の大当りが終了し、大当りとなったときの図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の図柄が、前記した「特定図柄」のときには、前記図柄表示器４０の普通図柄表示部Ｈ１、Ｈ２での当たり確率を９９／１００（具体的には、当たり乱数に２．０４８ｍｓ毎に１をプラスして、０～９９（１００種類）までの循環乱数を形成し、１～９９（９９種類）を当たりに設定している。）になるように設定し、特別遊技状態を奏する。この特別遊技状態となると、当たりとなる割合が非常に高くなり、普通電動役物３４の開口数が多くなって、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の図柄変動が多くなり、その結果、大当りの割合が多くなる。

一方、前記特定図柄での大当りの前兆となる、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２の図柄が揃うリーチは、７通り（「１（黒数字）、１（黒数字）」、「３（黒数字）、３（黒数字）」、「５（黒数字）、５（黒数字）」、「７（黒数字）、７（黒数字）」、「９（黒数字）、９（黒数字）」、「１１（黒数字）、１１（黒数字）」、「１３（黒数字）、１３（黒数字）」）であり、割合は７／１５であり、１／３より大きい。即ち、特定図柄でリーチとなる割合（７／１５）は、特定図柄で大当りとなる割合（７／２２）に比して大きくなる。
このように、最後に停止する図柄表示部Ｌ３の図柄を、図柄表示部Ｌ１（Ｌ２）と同じ図柄であるが、区別可能なマークを附した図柄（追加図柄）を付加することによって、大当りの割合を変更することなく、図柄の組合せにおいて、特定図柄で大当りとなる前兆のリーチ状態の割合を増加させることができ、遊技者の興趣を誘うこととなる。
尚、前記最後に図柄を停止する図柄表示部Ｌ３の図柄は、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２と同じ図柄である必要はなく、例えば、図柄表示部Ｌ３の図柄を、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２に対応する絵柄等で大当りとし、その絵柄等の中で、特定絵柄に対して、特定図柄で大当りとなるように構成することであってもよい。又、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２の図柄の種類を１５種類としてあるが、それ以外の種類で構成してもよい。

【００１１】

次に、図柄表示部Ｌ１、Ｌ３、Ｌ２のリーチ状態の表示に関して従来と異なる表示について、図３、図４を参照して説明する。
図柄表示部Ｌ１、Ｌ３、Ｌ２は一斉に図柄が変動開始し、所定時間経過すると、順次、図柄表示部Ｌ１、図柄表示部Ｌ２と停止し、最後に図柄表示部Ｌ３の図柄が停止するが、図柄表示部Ｌ１と図柄表示部Ｌ３の停止図柄が一致して表示する場合にも、リーチとして認識可能に表示を行うものである。
但し、規格によって、前記した様に停止順序は、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の順序であり、且つ、図柄変動中における図柄停止時間は所定時間（０．５秒）以内である。尚、この規格が変更となったときには、例えば、図柄表示部Ｌ２と図柄表示部Ｌ３の図柄を同時に停止するように構成することもできる。
この可変表示を図３を参照して説明すると、先ず、図柄表示部Ｌ１の図柄（図柄Ｈ）が停止しても、図柄表示部Ｌ３、Ｌ２は可変中である（イ）。そして、図柄表示部Ｌ３の停止図柄と図柄表示部Ｌ１の停止図柄が一致して表示するときには、図柄表示部Ｌ２の図柄は可変中であるが、図柄表示部Ｌ３は停止図柄にさしかかったときだけ、判明できる程度に低速で可変表示したり、前記の停止時間（０．５秒）以内の０．４秒だけ図柄を停止させるようにする（ロ）。この状態を見ることによって、遊技者は図柄表示部Ｌ１、Ｌ３の停止図柄が少なくとも一致し、リーチとなることを認識できるし、図柄表示部Ｌ２の停止図柄に大当りとなる期待をよせる。そして、停止順序を変更することなく、図柄表示部Ｌ２の図柄（数字０、図柄Ａ）を停止した後（ハ）に、図柄表示部Ｌ３の図柄を停止し、各図柄表示部Ｌ１、Ｌ３、Ｌ２の停止図柄（７（黒）、７（黒）、０（白））を表示する（ニ）。
この様に、図柄表示部Ｌ１と図柄表示部Ｌ３の停止図柄が一致するときに、前記のように、リーチ状態として、図柄表示部Ｌ３の停止図柄を予め遊技者に知らせることによって、少なくとも、図柄表示部Ｌ１と図柄表示部Ｌ３の停止図柄が一致することを予め認識しながら遊技することができるため、今まで以上に、リーチ状態となる割合が増加し、大当りとなる期待感を提供することができる。
尚、図柄表示部Ｌ１、Ｌ３、Ｌ２の図柄表示の制御方法はよく知られた方法において、図柄表示部Ｌ３の図柄が前記条件と一致する図柄において０．４秒停止し、経過後は高速可変するように制御すればよいため、説明を略す。
又、前記例においては、図柄表示部Ｌ１と図柄表示部Ｌ３の停止図柄が一致したときをリーチとして図柄表示部Ｌ３の停止図柄を予め認識可能にしているが、大当り終了後に、その大当りが特定図柄であったときに限定して実施するように構成してもよい。

【００１２】

次に、図４は図柄表示部Ｌ２と図柄表示部Ｌ３の停止図柄が一致するときの表示に関する

ものであって、前記図柄表示部Ｌ１と図柄表示部Ｌ３の停止図柄が一致するときと同じである。
図柄表示部Ｌ１の図柄（図柄Ａ）が停止しても、図柄表示部Ｌ３、Ｌ２は可変中である（イ）。そして、図柄表示部Ｌ３の停止図柄と図柄表示部Ｌ２の停止図柄が一致して表示するときには、図柄表示部Ｌ３、Ｌ２の図柄を揃って可変表示し、各図柄が判明できない早さから順次判明できる早さとする（ロ）。この状態を見ることによって、遊技者は図柄表示部Ｌ２と図柄表示部Ｌ３が同じ停止図柄であり、リーチとなることを認識する。そして、図柄表示部Ｌ３、Ｌ２の図柄を揃えて、更にゆっくりと可変表示する（ハ）。遊技者は、図柄表示部Ｌ３、Ｌ２の揃った図柄が、図柄表示部Ｌ１の図柄と一致して停止すると大当りとなるため、どの図柄で停止するか期待をよせる。その後、図柄表示部Ｌ２、Ｌ３の停止順序を変更することなく、図柄表示部Ｌ２の図柄（数字７、図柄Ｈ）を停止した後に、図柄表示部Ｌ３の図柄（数字７、図柄Ｈ）を停止する（ニ）。尚、前記図柄表示部Ｌ２の図柄が停止した後、図柄表示部Ｌ３の図柄が停止する迄の時間は、一瞬の違いであり、遊技者にとっては同時に停止したと認識する。又、規格が変更となり、この様な場合には、図柄表示部Ｌ２と図柄表示部Ｌ３の図柄を同時に表示するように構成することもできる。
この様に、図柄表示部Ｌ３、Ｌ２の停止図柄が一致するときに、通常とは異なり、図柄表示部Ｌ３、Ｌ２の図柄を揃って表示することによって、リーチ状態を増加させるし、これらの図柄がゆっくりと変動し、図柄表示部Ｌ１と同じ図柄で停止して、大当りとなるか、図柄変動中、大いに興趣が沸く。又、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３に停止表示される図柄が、予め決められた図柄の組合せのときには、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の図柄を揃って可変表示するようにしてもよい。
【００１３】
（実施例２）
次に、本発明の実施例として、所謂、「３回権利もの」のパチンコ機を取り上げる。尚、このパチンコ機はよく知られているため、概略説明する。
図５はパチンコ機の正面を示し、遊技板２の上に、ほぼ円状に設けられた外レール３ａと内レール３ｂに囲まれた領域が遊技領域となり、該遊技領域のほぼ中央には後記で詳述する、図柄表示器（普通図柄表示器）５が配置されている。この普通図柄表示器５は、１枚の液晶板、或は複数枚の液晶板等で構成し、各種の図柄が可変表示可能としてあり、図６に示す状態は、左から図柄表示部Ｌ１、Ｌ３、Ｌ２として表示配列してある。又、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２には、実施例１と同じ図２に示すように、「０」～「１４」（図柄としてＡ～Ｏ）の１５種類の図柄が表示されるが、最後に停止する図柄表示部Ｌ３の図柄は、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２に表示の「０」～「１４」の１５種類の他に、「１」（図柄Ｂ）、「３」（図柄Ｄ）、「５」（図柄Ｆ）、「７」（図柄Ｈ）、「９」（図柄Ｊ）、「１１」（図柄Ｌ）、「１３」（図柄Ｎ）と同じ図柄であるが識別マーク（数字を黒と白）で区別する図柄（追加図柄）を付加してあり、２２種類の図柄である。又、前記図柄表示部Ｌ１、Ｌ３、Ｌ２の下には、後記で詳述する権利発生後のラウンド回数を表示するラウンド選定表示器Ｌ４が付設してある。
普通図柄表示器５の下には、遊技球の通過が可能な特定通過領域７（以下、中央ゲートという。）が設けられ、遊技球がこの中央ゲート７を通過すると、前記図柄表示部Ｌ１、Ｌ３、Ｌ２の図柄は一斉に変動を開始する。そして、所定時間経過後に、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の順に図柄を停止させ、各図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の停止図柄が、全て同じ、「０、０、０」～「１４、１４、１４」（表示部Ｌ３の停止図柄は、識別マークである数字が黒か白に関係なく）の２２通りのとき、大当りを発生させる。尚、大当り、リーチ（図柄表示部Ｌ１、Ｌ２が同じ図柄）のときの停止図柄の選定方法は、実施例１と同じであるため説明を略す。この大当りが発生すると、普通電動役物８に付設の開閉可能な開閉扉９が約５．７秒間、開状態を維持するか、約５．７秒間経過前であっても遊技球が５個（後述の保持部１０に保持されているときには６個）入賞したときには閉状態となる。尚、この普通電動役物８の中央部には、落下する遊技球を保持する保持部１０が形成され

ていて、前記条件で、開閉扉９を閉じたとき、保持部１０に載置された遊技球は普通電動役物８の後下部に設置の特別装置作動領域１２を通過することによって「権利」が発生する。この「権利」発生中に、始動入賞装置４に付設の反時計方向に１０秒で１回転する回転体１６に保持された遊技球が、始動入賞口（図示略）に入ることによって、大入賞口１５は所定時間（例えば、約９．８秒）、開口状態を維持した後閉となるか、前記所定時間内であっても、遊技球が所定個数（例えば、１０個）入賞すると閉となって、多量の賞品球の排出を可能としている。尚、１回目の権利終了後は、後２回権利が発生するまでの間に限り通常状態において、大当りを発生する確率が高くなるように制御されるので、１回目の権利中に獲得した賞品球と併せて、計３回の権利中に獲得した賞品球を景品と交換することとなる。

【００１４】

本実施例の図柄表示部Ｌ１、Ｌ２に可変表示する全図柄は１５通り、最後に停止する図柄表示部Ｌ３に表示の図柄は２２種類である。これらは、実施例１と同じ構成である。

又、本形式の３回権利もののパチンコ機においても、リーチ状態を、図３、図４に示すように表示することも可能であることは言うまでもない。

図６、図７は、前記３回権利もののパチンコ機に対し、権利が発生して多数の賞品球を付与する生起回数（ラウンド回数）の決定及び表示方法についてである。図６は普通図柄表示器５の拡大図であって、図柄表示部Ｌ１、Ｌ３、Ｌ２の下部に、ラウンド回数を選定する手段としてのラウンド選定表示器Ｌ４が設けてあり、図７は、図柄表示部Ｌ１、Ｌ３、Ｌ２に、前記で決定したラウンド数を表示するものである。

尚、このラウンド選定表示器Ｌ４は可変表示可能であって、表示する図柄は、前記図柄表示部Ｌ１と同じ図柄（図２）であり、停止図柄によって、例えば、停止図柄が「１、３、５、７、９、１１、１３」のときには許容ラウンド数は１６回、それ以外は５回に選定される。

具体的に説明すると、遊技球が中央ゲート７を通過して、図柄表示部Ｌ１、Ｌ３、Ｌ２の停止図柄が揃って大当りが生起し、その後、遊技球が普通電動役物８の後下部に設置の特別装置作動領域１２を通過することによって「権利（特別遊技状態）」が発生する。その後、前記ラウンド選定表示器Ｌ４を所定時間可変表示させた後に停止させる（或は、遊技者にとって認識できない早さで図柄を常時変動させておいて、遊技球が特別装置作動領域１２を通過したことによって、遊技者に対して認識できる程度に変動速度を落し、所定時間後に図柄を停止させてもよい）。そして、その停止図柄が「１、３、５、７、９、１１、１３」のときには許容ラウンド数は１６、それ以外は５として、普通図柄表示器５の図柄表示部Ｌ１、Ｌ３、Ｌ２に表示し、始動入賞装置４に入る許容技球数は前記ラウンド数となり、大入賞口１５が開く回数が決定される。

図７は、権利発生後に、前記ラウンド選定表示器Ｌ４で選定されたラウンド数を権利発生毎に示すものであり、１回目の権利中には、図柄表示部Ｌ１に１回目の権利発生後に、ラウンド選定表示器Ｌ４で選定されたラウンド数、例えば、「５」を表示する。次に、２回目の権利中には、１回目のラウンド数「５」を図柄表示部Ｌ１に表示すると共に、２回目の権利発生後に前記ラウンド選定表示器Ｌ４で選定のラウンド数、例えば、「１６」を図柄表示部Ｌ３に表示する。同様に、３回目の権利中には、１回目及び２回目のラウンド数と共に、図柄表示部Ｌ２に、例えば、「５」を表示する。又、権利中は、表示部に大入賞口への入賞個数や、そのときのラウンド数を表示し、権利消滅後に、選定されたラウンド数を表示するようにしてもよい。

【００１５】

前記した様に、権利（特別遊技状態）が発生した後に許容ラウンド数が決定されるため、遊技者は何れの図柄で大当たり（リーチ）となっても、新たにラウンド数が選定され、大きな数のラウンド数を得る可能性があるので、大きな興趣を得る。即ち、従来のようにリーチ（大当り）段階での図柄によって、判ってしまうことがなく、新たに選定されるため、権利発生後の楽しみが増える。

又、各権利（特別遊技状態）毎にラウンド数を表示することによって、どのようなラウン

ド数の経過があったのか、一目で判るし、現在何回目の特別遊技状態中であるかも知ることができる。又、この様に表示することによって、遊技店において、例えば、ラウンド数の表示が、「１６、１６、１６」の場合には獲得賞品球数が多いので景品と交換するように遊技者に知らせ、「５、５、５」のように獲得賞品球数が少ないときには、景品に交換することなく、遊技の続行を可能とする判断情報となり、サービスの向上に寄与する。
尚、前記例において、図柄表示部Ｌ１、Ｌ３、Ｌ２にはラウンド数を表示してあるが、ラウンド選定表示器Ｌ４での停止図柄であってもよい。又、ラウンド数の選定にラウンド選定表示器Ｌ４を別途設けているが、１回目の権利発生後には図柄表示部Ｌ１で図柄変動させ、２回目の権利に対しては図柄表示部Ｌ３、３回目には図柄表示部Ｌ２で図柄変動させた後、各々の結果を図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３に表示するように構成することもできる。

【００１６】
次に、図８～図１０にリーチ（図柄表示部Ｌ１、Ｌ２の図柄が揃う）となった後の、図柄表示部Ｌ３の停止図柄に到る過程について説明する。
図８は、所謂、権利もののパチンコ機に適用するために、前記図５に示す図柄表示器５を変形したものであって、一枚の液晶で構成され、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３と襖絵部Ｌ５に区画形成して図柄を表示する。又、図９は図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３に表わす図柄であって、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２には「数字」が８種類と、「絵」が４種類の計１２種類が表示され、図柄表示部Ｌ３には「数字」が１０種類と「絵」が９種類（尚、同じ桜の絵を５個含む）で計１９種類が表示される。尚、大当りとなる図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の停止図柄は、全て同じ図柄が揃った１２通りである。
遊技球が中央ゲート７（図５）を通過すると、前記図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の図柄は一斉に変動を開始する。そして、所定時間経過後に、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の順に図柄を停止させ、各図柄表示部Ｌ１、Ｌ２の停止図柄が揃ったとき（例えば、図８に示す「一」で揃った時）には、リーチとなって、先ず、襖絵部Ｌ５が左右に開くように表示され、図１０（イ）に示す「壺」の絵と共に「勝負」と表示される。尚、図柄表示部Ｌ３の図柄は可変を維持している。その後、襖絵部Ｌ５には、図１０に示す、「奇数」（ロ）、「偶数」（ハ）、「絵」（ニ）、「寿」（ホ）、「？」（ヘ）の何れかが表示され、図柄表示部Ｌ３で停止する図柄が暗示される。即ち、襖絵部Ｌ５に図１０に示す「奇数」（ロ）が表示されたときには、図柄表示部Ｌ３には奇数の数字（一、三、五、七、九）の何れかが選択される。その結果、図８に示す「一」でリーチのときには大当りとなる可能性があることを遊技者に知らせる。「偶数」のときには、偶数の数字（二、四、六、八、十）であるため、奇数の数字で揃ってリーチの場合には外れとなることが判る。又、「絵」であれば絵（桜、王、中、坊主、サイコロ）が選択されるため、「絵」でリーチでない場合には外れとなることが認識可能となる。「寿」を表示したときには、図柄表示部Ｌ３には図柄表示部Ｌ１（Ｌ２）と同じ停止図柄が表示される可能性を高くしてあるため（例えば、９９パーセントの確率で大当りとする）、遊技者は、この段階で大当りとなる可能性が高いことを知ることとなる。又、「？」の時には、そのまま「？」を表示する場合には全ての図柄（数字一～十と９種類の絵）の何れかが選択されるため、図柄表示部Ｌ３の図柄が停止するまで、大当りとなるか不明である。一方、「？」を表示後、図９の（ト）に示す図柄（「大吉」が一箇所と「ドクロ」が複数のルーレットを構成する図柄）が表示される場合があり、この場合には、ルーレットが回転して、「大吉」か「ドクロ」が選択される。ルーレットが「大吉」を指した場合には、図柄表示部Ｌ３に停止する図柄は、図柄表示部Ｌ１（Ｌ２）と同じ図柄か、相隣りの図柄で停止するため、大当りとなることに期待をいだくが、「ドクロ」が選定されたときには外れであるため、図柄表示部Ｌ３を早期に停止表示して、図８に示す状態とする。又、「ドクロ」が選定された場合でも、僅かであるが大当りとなる可能性を残しておいてもよい。
尚、前記大当りとなった後には、襖絵部Ｌ５に「大当たり」を祝福する図柄（図略）が表示される。この大当りが発生して、遊技球が、普通電動役物８の後下部に設置の特別装置作動領域１２を通過することによって「権利」が発生する。この段階で、襖絵部Ｌ５に「

右打ち」（図示略）を表示して、遊技者に、始動入賞装置４に向かって打つように注意を促して、権利発生中の遊技を有利にするために報知する。
前記のように、図柄表示部Ｌ１、Ｌ２の図柄が揃ってリーチとなった後に、予め、図柄表示部Ｌ３の停止図柄を種類別等に区分けして予知可能に構成してあるため、遊技者にとって、早期に落胆したり、反対に、大当りとなる期待感を抱きながら遊技ができて、面白味を発揮することができる。
尚、前記各実施例は、前記記載の形式のパチンコ機に限定されないし、他の遊技機に対しても有効である。

【００１７】

【発明の効果】

本発明の遊技機は、第１図柄表示部（Ｌ１）と第３図柄表示部（Ｌ３）の図柄が一致する場合を考慮するので、第２図柄表示部（Ｌ２）の図柄に注目する新たな興趣の向上を図ることができる。

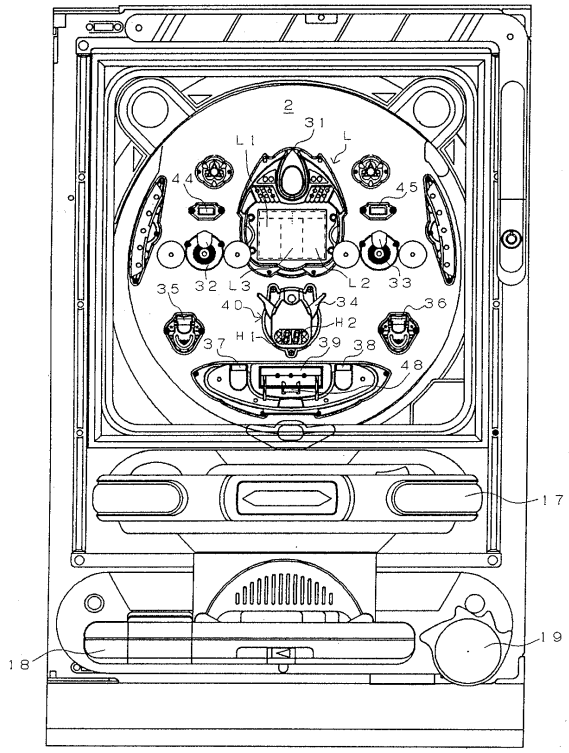
【図面の簡単な説明】

【図１】実施例１のパチンコ機の正面図である。
【図２】図柄表示部で可変表示する図柄を示す図である。
【図３】図柄表示部でリーチ状態に対する図柄停止方法を示す図である。
【図４】図柄表示部でリーチ状態に対する他の図柄停止方法を示す図である。
【図５】実施例２のパチンコ機の正面図である。
【図６】図柄表示器の拡大図である。
【図７】図柄表示部でのラウンド数を示す推移図である。
【図８】他の図柄表示器を示す図である。
【図９】図柄表示部での図柄を示す図である。
【図１０】図柄表示器で表す図柄を説明する図である。
【図１１】従来の図柄表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３で可変表示する図柄を示す図である。

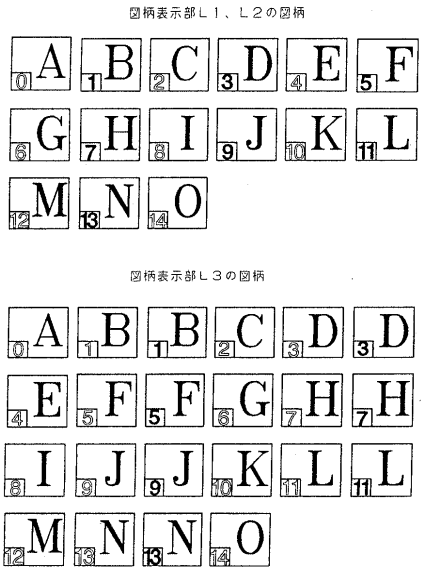
【符号の説明】

４　始動入賞装置
５　図柄表示器（普通図柄表示器）
７　特定通過領域
８　普通電動役物
１２　特別装置作動領域
１５　大入賞口
Ｌ　図柄表示器
Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３　図柄表示部
Ｌ４　ラウンド選定表示器

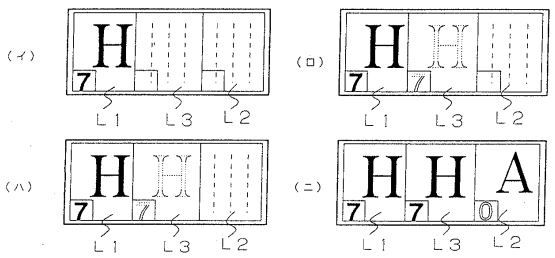
【図１】


2
31
L1
L
44
45
35
32
L3
L2
33
40
34
36
H2
H1
37
39
38
48
17
18
19

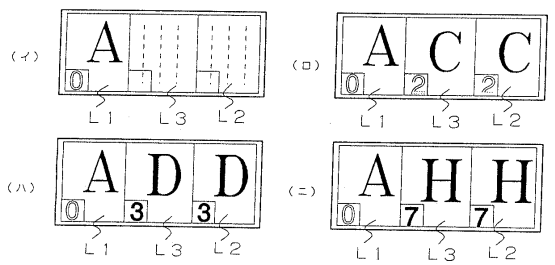
【図２】


図柄表示部Ｌ１、Ｌ２の図柄
0 A 1 B 2 C 3 D 4 E 5 F
6 G 7 H 8 I 9 J 10 K 11 L
12 M 13 N 14 O
図柄表示部Ｌ３の図柄
0 A 1 B 1 B 2 C 3 D 3 D
4 E 5 F 5 F 6 G 7 H 7 H
8 I 9 J 9 J 10 K 11 L 11 L
12 M 13 N 13 N 14 O

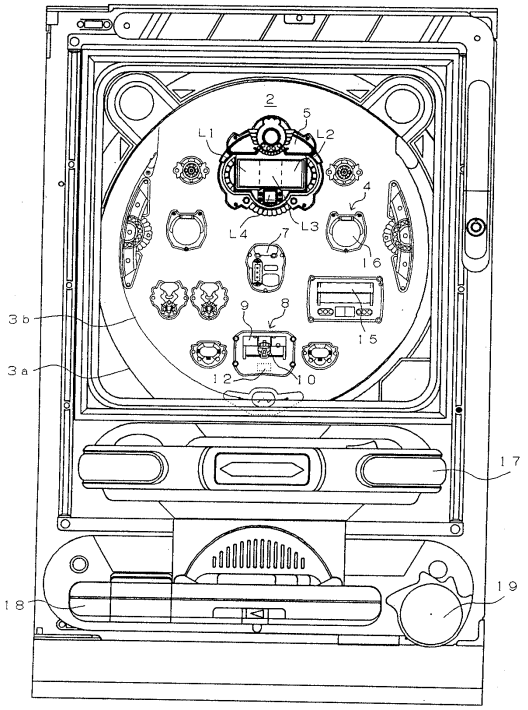
【図３】


(イ)
H
7
L1 L3 L2
(ロ)
H
7 7
L1 L3 L2
(ハ)
H
7 7
L1 L3 L2
(ニ)
H H A
7 7 0
L1 L3 L2

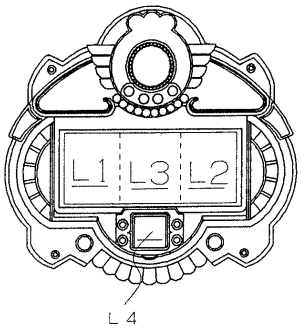
【図４】


(イ)
A
0
L1 L3 L2
(ロ)
A C C
0 2 2
L1 L3 L2
(ハ)
A D D
0 3 3
L1 L3 L2
(ニ)
A H H
0 7 7
L1 L3 L2

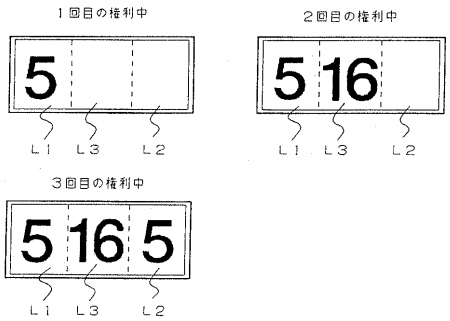
【図５】


2
5
L1
L2
4
L4
7
L3
16
9
8
15
3b
3a
12
10
17
18
19

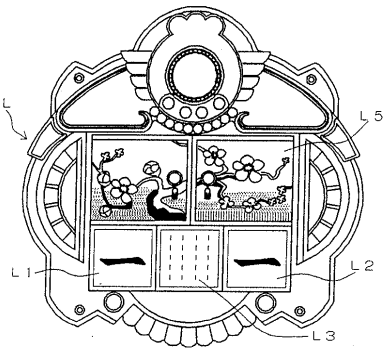
【図６】



【図７】



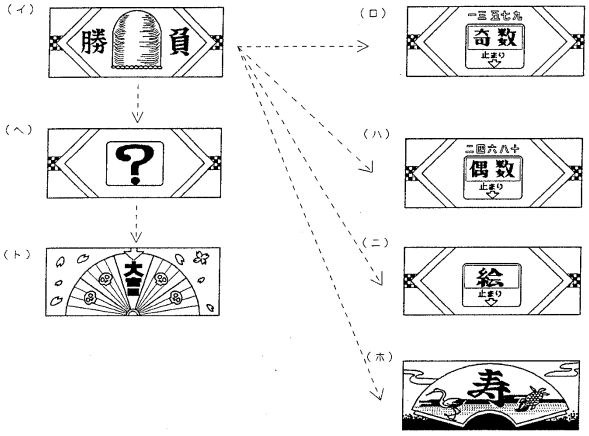
【図８】



【図９】

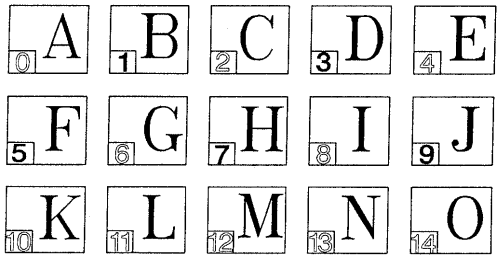


【図１０】



【図１１】

表示部Ｌ１、Ｌ２、Ｌ３の図柄



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平６－３９１０７（ＪＰ，Ａ）
実開平４－２２９８８（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A63F